



2004年7月28日 No. 94

細川律夫国会事務所 TEL 03-3508-7513 FAX 03-3593-7148

細川律夫後援会本部 TEL 048-966-5115 FAX 048-965-8818

E-mail : g04091@shugiin.go.jp ホームページ : <http://minshu.org/hosokawa/>

新参議院議員を迎え国会開幕

7月30日から第160回臨時国会が始まります。参議院選で争点になった年金問題、イラク多国籍軍への参加に加え、日本歯科医師政治連盟をめぐる疑惑も議論になります。

島田、家西さんも初登院

ご承知のとおり参議院選挙で民主党は大きく議席を伸ばし、自民党を超える50議席を獲得しました。埼玉では新人の島田ちやこさんがトップ当選で昨年補選の雪辱を果たし、比例区でも北関東重点候補の家西さとるさんが党内4位という高順位で当選しました。しかし、公示日直前に埼玉で2人目の民主党公認候補となった弓削勇人さんは、次点に終わりました。



岡田代表と細川代議士(6月26日、新越谷駅東口)

細川代議士は選挙期間中連日候補者の応援に走り回りました。県連代表として県内で選挙区候補の応援演説をするのはもちろん、来県した比例区候補



当確決定直後の島田候補と細川県連代表に同行したり、他県の候補者を訪ね激励するなど、様々な活動をしました。地元の埼玉3区については、岡田代表が越谷に、菅前代表が草加と越谷にそれぞれ入り、多くの聴衆に支持を訴え、当初低調とも言われた選挙戦を大いに盛り上げました。

細川議員、欧州を視察

細川律夫代議士は、7月18日から7月26日の9日間、予算委員会海外視察団の一員として、ヨーロッパ各国を歴訪しました。この視察団は笹川堯予算委員長(自民)を団長にし、民主、自民、公明、社民の理事、委員9人で構成されています。訪れた都市はパリ、ロンドン、オスロ、プラハで、各国で政府首脳や議会関係者と会談し、それぞれの財政事情、あるいは年金を含めた社会保障制度などの調査をしました。国会議員の視察は、会談や施設見学で埋まる忙しい日程が組まれています。8月には国内の視察が予定されています。

司法解剖予算は前進へ

質問主意書を提出

細川律夫代議士は6月、内閣に対し、「検視、検案、司法解剖等に関する質問主意書」を提出し、現在行われている死因決定制度の問題点を追及しました。質問の概要は次のとおりです。

1. 変死体については検察官または警察官によって検視が行われ、立会いの医師が死亡の事実を確認する検案が行われる。しかし、現実には死因を間違えて決定する誤認検視も多く、犯罪による死が事故死にされたり、事故死が病死とされたりする例が多い。視覚などの五官で行うという、従来の検視の解釈を変更し、CTの利用などによって検視、検案を科学的に行い、誤認を防ぐ対策を考えるべきである。
2. 死体に犯罪の疑いがある場合、大学の法医学教室で司法解剖が行われるが、警察庁から支払われる謝金が1体につき7万円しかなく、到底解剖の経費を賄うものではない。警察は鑑定書の作成料にあたるとしているが、それでは技術料や人件費はどうなるのか。
3. 警察庁は、大学の教育・研究に役立っているから大学が費用を払えばいい、というが、今年から独立法人化した大学が司法解剖の経費を払い続ける保証はない。
4. 今後警察庁は司法解剖を大学に委託する際、技術料、検査費も含めた委託費を支払う契約をすべきである。
5. 薬物検査も予算不足で充実していない。

要するに、現行のやり方では、死因決定の誤りが多くなり、殺人を犯しても全く事件にもならないケースが多いのではないかと、このことで、社会正義の実現のためにはしっかりした制度と予算が必要だとの趣旨です。

答弁書とその後

この質問主意書に対し、内閣は答弁書を出しましたが、「検視の解釈を変更する必要はない」「謝金は法令にしたがって支出している」「司法解剖の鑑

定は委託費を支払うような契約にはなじまない」など、いずれも政府のやっていることに間違いはないとの答弁でした。

しかしながら、ほとんど、この質問と同時に週刊文春に同じ趣旨の記事が掲載されたこともあり、警察庁は現在のやり方では制度が持たないのではないかと、との意識を持ちはじめ、来年度予算要求に当たって、考え直す方向で検討を開始したようです。

国会議員の役割

予算や年金とは異なり、このように一人の議員が積極的に動くだけで状況を変えることができるテーマもあります。細川律夫議員は、社会的公正や権利保障の課題で、他の議員が関心を持たない分野のことも取り組んでいます。そのような例として、この問題にも注目してください。

なお、質問と答弁の全文は衆議院のHPに掲載されています。

交番の信頼喪失は大問題

7月14日夜、草加駅東口交番近くで男性が数人の男に連れ去られ暴行される事件がありました。被害者は「交番に助けを求めたが追いかけていた男に連れ戻された」と語っているのに対し、交番の警察官は「交番内にははいっていない」とはじめウソを言いました。後に加害者の暴力団員は逮捕されましたが、安全確保の頼みの綱である交番が頼りにならないというのでは大変です。

早速、国会事務所に警察庁の役人を呼んで、なぜ虚偽の報告をしたのかなどを追及し、今後、交番が信頼を失わないよう努力するよう強く要請しました。

細川さんから一言

猛暑が続いていて、仙英
1ルル。フェコでは予算の成立
過程、社会福祉も勉強し
てきた。折川は財政部報告
したところ、印白管下311。